

靴内気候の快適性に与える影響 —布靴（キャンバスシューズ）—
昭和女大短大 ○三ツ井紀子 昭和女大（院） 辻和江

〔目的〕 市販の布製の靴（キャンバスシューズ）を着用し、運動負荷による靴内の温度・湿度の変化について測定した。布靴と靴下類の組み合わせによる、靴内気候と着用者の主観的感覚との関係について検討した。

〔方法〕 裸足、ストッキングまたは綿靴下、および布靴を種々に組み合わせ、着用実験を行なった。実験は、気温 26°C ・湿度 $50\% \text{RH}$ の人工気候室で行なった。被験者は、 $19\sim 21$ 歳の女子学生7名とし、21分間安静の後6分間運動負荷（踏台昇降）し、再び30分間安静を保った。被験者の着衣は、長袖のトレーナー上下、下着とした。実験中、口腔温、心拍数、および靴内3箇所温度・湿度を測定し、さらに、被験者の主観的感覚を3分間隔で申告させた。

〔結果〕 ①心拍数の運動負荷による変化は、革靴着用時とほぼ同様であった。②靴内の温度と湿度は、指間の方が足底部より高温・高湿であった。③靴内温度・湿度は運動終了直後を最大としてその後もかなり高かったが、被験者の主観的感覚（湿り感・不快感など）は、低下していった。④着用靴下の種類により、靴内の温度や湿度の変化にやや違いがみられた。